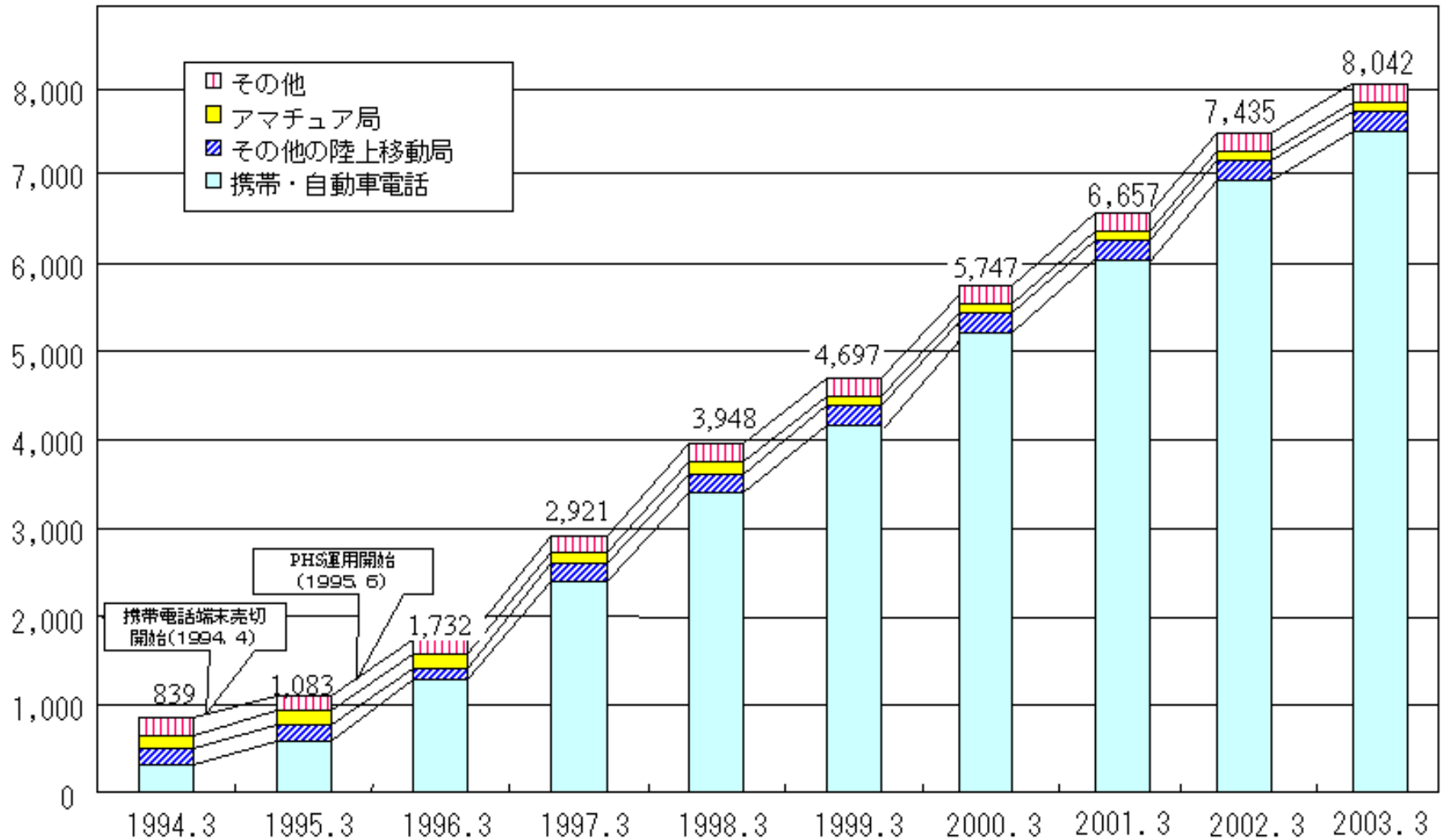


# 電波探検隊報告各論版調査研究一 800MHz帯携帯電話とMCA無線を中心に (要綱版)

# 無線局数の推移

無線局の9割以上が  
携帯電話である

単位: 1万局

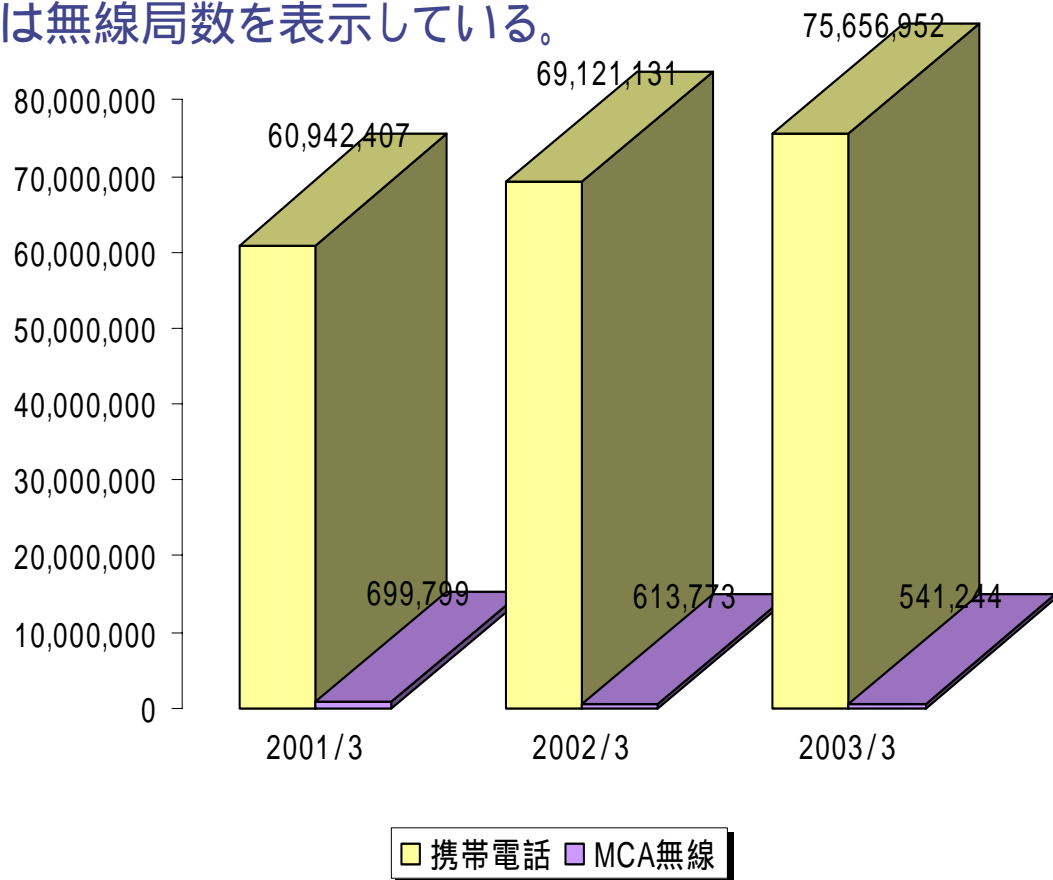


※ 免許を要しないPHS、コードレス電話、市民ラジオ等の無線局を除く

出典: 総務省電波利用ホームページ

# 携帯電話とMCA電話の利用者数

単位：携帯電話は加入者数、MCA無線は無線局数を表示している。



- ◆ 携帯電話はMCA無線の140倍の利用者数を持つ。
- ◆ ここ3年間の利用者数を見ると、携帯電話は、毎年9-13%増、MCA無線は毎年12%減である。
  - MCA無線は、このペースだと、10年後に利用者数が15万人になる。

注：MCA無線の利用者は携帯電話に比べて少なすぎて、上図では、板のようになってしまう。

# 携帯電話と無線電話による 市場規模

## ◆ 携帯電話提供団体の、

- 年間合計収入額は、8兆2,144億円である。
- 年間合計当期利益額は、4,076億円である。

## ◆ MCA無線提供団体の、

- 年間合計収入額は、167億円である。
- 年間合計当期収支差額は、1.2億円である。

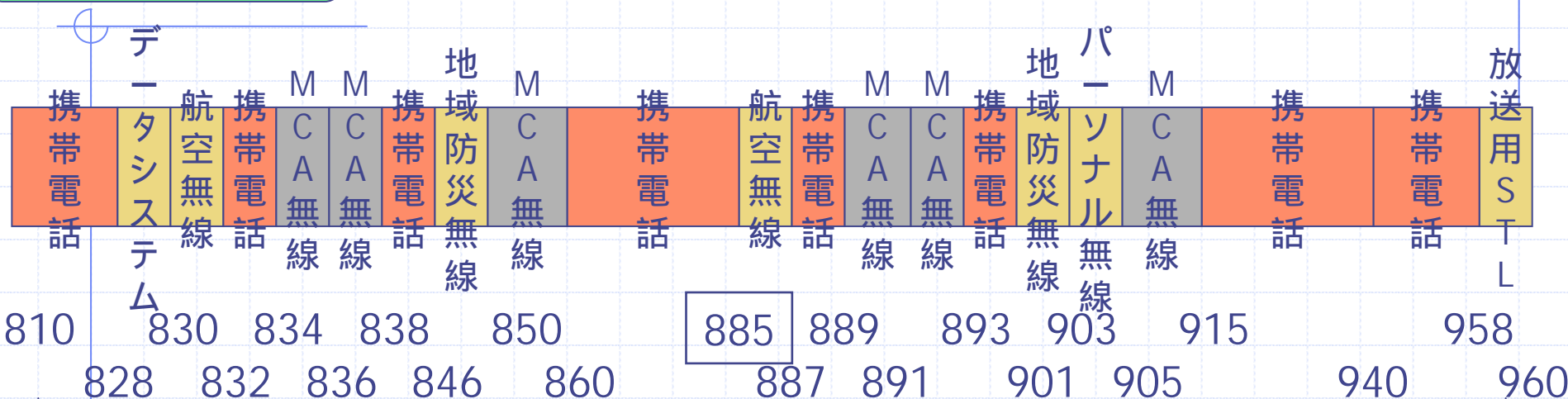


利用者数も雲泥の差だが、市場規模(収入額)としても500倍、提供団体の実力(当期利益額)に至っては3,500倍の差がある。

注:金額は2003年3月末決算時のもの。また、公益法人の当期収支差額を、当期利益として考えた。

# 800MHz帯の基本的利用状況

## 国内割当



800MHz帯における携帯電話とMCA無線への合計割当周波数幅は？

携帯電話 = 106MHz      MCA無線 = 28MHz

この帯域幅が、800MHz帯の携帯電話とMCA無線が利用できる帯域幅である

# 電波の価値

- ◆ 携帯電話とMCA無線は、ほとんど同じ周波数帯を利用している。
- ◆ 携帯電話は、MCA無線の1000倍、電波を有効利用している。携帯電話の利用電波は、高付加価値を産んでいる。
- ◆ これに土地の比喻を利用すれば、銀座の一等地に農牧地があるようなものである。

